

日野町認定こども園整備基本構想 概要版

1 認定こども園整備基本構想の趣旨

令和6年2月に提言された「子育て環境の未来に向けての提言(「以下、「懇話会」)」に基づき、町の未来を担う子どもたちのために、より良く持続可能な幼児教育・保育環境の実現を目指して、公立の幼保施設の早期再編成が必要であると判断し、その具体的な内容として、令和7年3月に策定した「日野町幼児教育保育施設再編整備計画」に基づき、令和10年度を目処に「認定こども園3園」に再編整備する方針を示しました。

再編整備後の認定こども園3園は、既存の「保育所こばと園(認定こども園へ移行)」、「桜谷こども園」及び、今回新たに整備する「新こども園」となることから、今回はその「新こども園」の基本構想を策定するものです。施設の再編と集約化を図ることにより、効率的な施設管理を実現し、0歳児から5歳児までが一貫した環境の中で、適正な集団規模を確保しつつ、連続性のある保育・幼児教育を推進することを目的とします。

2 再編整備後の受け入れ可能人数(新こども園の定員)

町内における再編整備後の幼児教育保育施設については、幼保連携型認定こども園3園と民間保育所2園、小規模保育施設2園での運営となり、再編整備後の各施設における受け入れ可能人数により、新こども園の受け入れ可能人数を算定した結果、定員数を285名としました。

	出生数 (推計)	年齢別 入所希望 率	入園希 望 予定数	クラスあたりの 園児数	公立 新施設 (1園) R10.4～			公立 こばと園 (1園) R10.4～			桜谷こども園 (第2園舎) 0～5歳			私立 わらべ保育園 (2園)		みらいしゃくな げ保育園 0～2歳		民間 (小規模保育 施設) 0～2歳		受入可 能園児 数の計
					クラス 数	園児数	保育士数	クラス 数	園児数	保育士 数	クラス 数	園児数	保育士 数	園児数	クラス 数	園児数	クラス 数	園児数		
0歳児	120	50%	60	1クラス9人	3	27	9	1	8	3	1	3	1	12	1	6	1	6	62	
1歳児	120	65%	78	1クラス10人	3	30	6	1	12	2		5	1	20	1	6	1	6	79	
2歳児	120	80%	96	1クラス15人	3	36	6	1	16	3	1	12	2	24	1	7	1	7	102	
3歳児	120	100%	120	1クラス20人	3	60	6	1	20	2	1	12	1	36	—	0	0	0	128	
4歳児	120	100%	120	1クラス22人	3	66	3	1	20	1	1	12	1	36	—	0	0	0	134	
5歳児	120	100%	120	1クラス22人	3	66	3	1	20	1		12	1	36	—	0	0	0	134	
計	720	—	594	—	18	285	33	6	96	12	4	56	7	164	3	19	3	19	639	

3 新こども園のコンセプト

“みんなが育ち合い、一人ひとりが輝く、笑顔いっぱい こども園”

【コンセプトの説明】

子ども、保護者、地域の人々が一緒になって育ち合う環境を大切にします。また、子どもたちの個性を大切にし、それぞれの「好き」や「得意」を伸ばせる環境を整え、保育者は一人ひとりにしっかりと向き合い、自己表現の楽しさを感じられるようサポートします。子ども、保育者、保護者、地域がつながり、みんなが笑顔あふれるこども園を目指します。

4 新こども園の整備方針

新こども園のコンセプトの実現に向けて、日野町認定こども園整備基本構想策定委員会の意見や「子育て環境の未来に向けての提言」および新施設整備検討会(各園長で構成)で作成した「施設整備にかかる基本的な考え方(配慮事項)」などを踏まえ、次の5つの柱を整備方針としてまとめました。

柱Ⅰ. 安全でだれもが安心してすごせる施設【安全性】

柱Ⅱ. 子どもたちが心も体ものびのびと成長できる施設【快適性】

柱Ⅲ. 多様な保育ニーズに応え、保育者が働きたい・働き続けたいと願う施設【利便性】

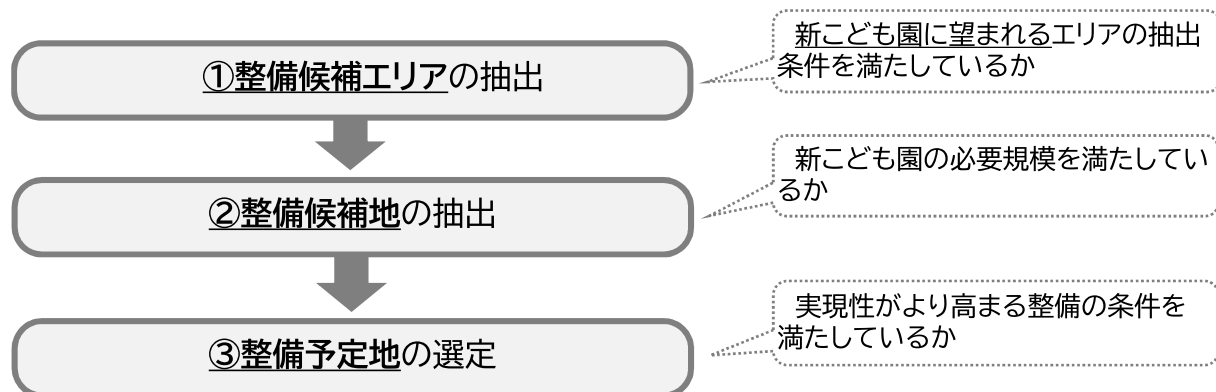
柱Ⅳ. 地域とつながり、子育て支援や交流の機会を生み出す施設【交流性】

柱Ⅴ. 周辺環境を活用し、自然とのふれあいや学びが広がる施設【周辺環境】

5 新こども園整備予定地の選定

整備予定地の選定は、過去に開催されていた懇話会の検討経緯やその検討結果である「子育て環境の未来に向けての提言」、さらに令和6年度から実施している「日野町認定こども園整備基本構想策定委員会」における意見等を踏まえて検討を進めました。具体的には、本構想において設定した施設整備方針をもとに、新こども園に求められる立地の条件および必要規模を整理し、整備候補エリアを絞り込み、整備候補地を抽出しました。

さらに、より望ましい立地の条件と実現性がより高まる整備の条件により整備候補地を比較し、新こども園の整備予定地を選定しました。



(1)整備候補エリアの抽出

町内には、桜谷こども園と令和10年度を目処に認定こども園へ移行する保育所こばと園が立地しており、整備後は新こども園を含めて3つのこども園が立地することになるため、通園範囲の重複を避けることを目的に既存2園からの徒歩圏(800m)範囲を除外するような前提条件を設定しました。

また、新こども園の整備候補エリアは、周辺に子育て層が転入できる住宅建設が可能かという観点および本町全域からアクセスできるかという観点を重視条件として設定した上で、災害リスクを除外条件として設定し抽出しました。

(2)整備候補地の抽出

整備候補地の抽出では、整備候補エリアの抽出結果をもとに、新こども園の整備に必要と想定される敷地規模を満たす6か所を整備候補地として抽出しました。

具体的には、新こども園整備に必要な敷地面積について、幼保連携型認定こども園の学級の編制、職員、設備および運営に関する基準および本町に設置されている幼児教育保育施設の実態を踏まえ、まとまった土地として10,000㎡以上を条件として設定しました。

(3)整備予定地の選定

整備予定地の選定は、整備候補地6か所に対し、整備方針に基づく5つの視点である「安全性」、「快適性」、「利便性」、「交流性」、「周辺環境」をもとに、評価項目および評価基準を設定し、「立地条件に関する評価」、「整備条件に関する評価」により、各候補地の評価結果を比較し、「総合評価」により選定しました。

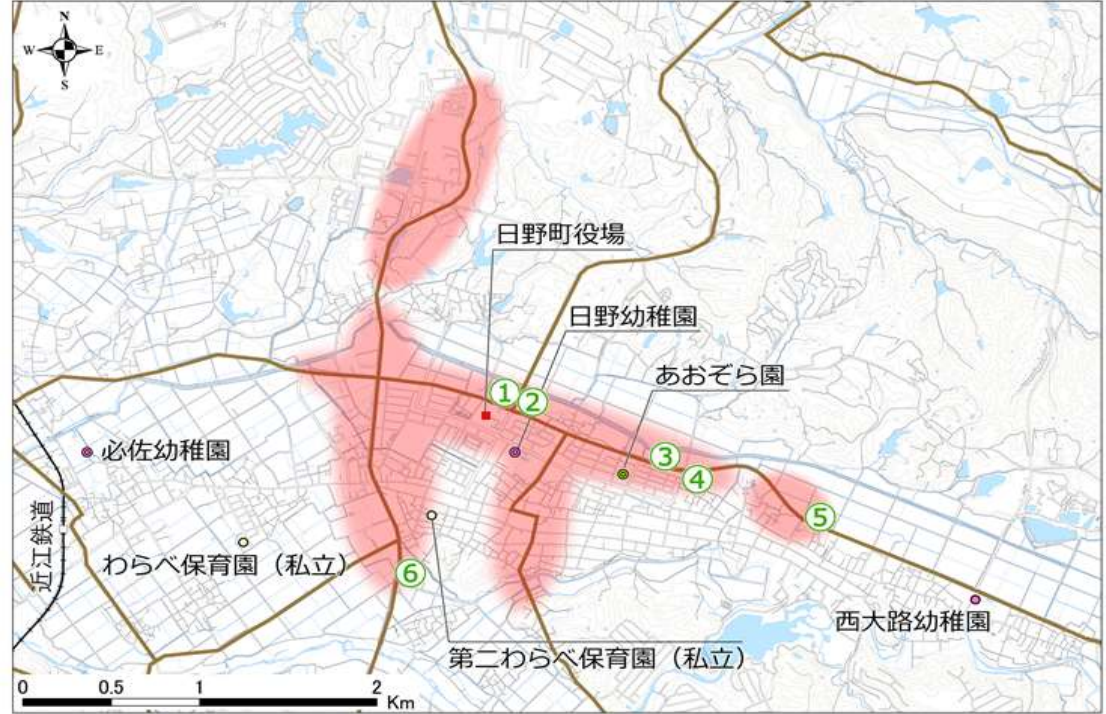
その結果、立地条件において特に優位性の高かった候補地①を整備予定地として選定しました。

なお、候補地の正式決定に向けては、整備スケジュールの遅延につながる可能性のある法規制等について調整を進めた上で、詳細検討を進めていくこととします。

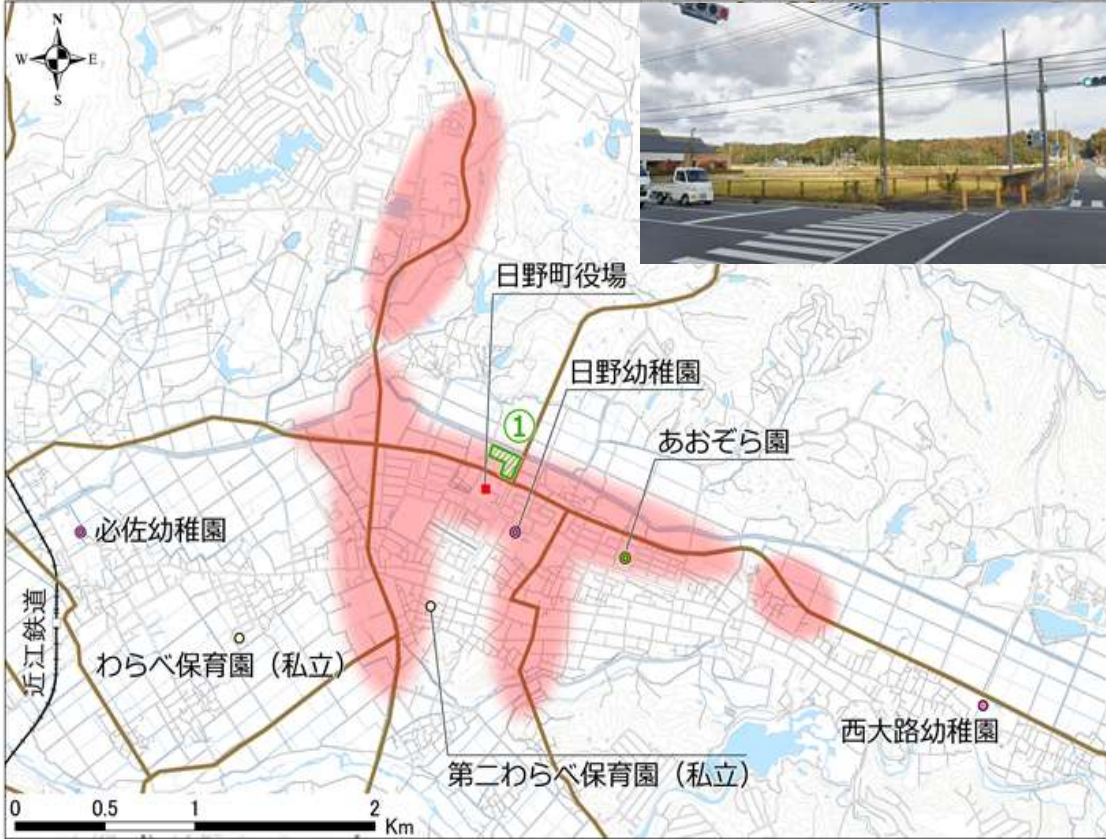
○総合評価

視点		候補地					
		①	②	③	④	⑤	⑥
立地条件	安全性	○	△	△	△	△	×
	快適性	○	○	×	×	×	△
	利便性	○	○	×	△	△	×
	交流性	○	○	×	×	×	×
	周辺環境	○	○	○	△	○	×
整備条件		○	○	×	△	△	×
	コスト	○	○	○	○	○	○
	スケジュール	△	△	△	△	△	△
総合評価		△	△	△	△	△	△
		○	○	×	△	△	×

■整備候補地の抽出■



■整備予定地■



6 新こども園の規模および配置イメージ

新こども園の規模は、将来的な想定園児数を踏まえて、法令上必要な面積を確保することを前提として設定しました。なお、今後の施設設計段階においては、最低限の規模に加えて、保育環境の向上を目的として、新こども園において適切な運用が可能となる広さを確保します。

■園舎の設定面積■

施設名	面積
日野幼稚園	1,043.00 m ³
あおぞら園	706.39 m ³
必佐幼稚園	1,160.00 m ³
桜谷こども園(第一園舎) ※新設園舎を除く	389.00 m ³
新こども園	約3,200.00 m ³

新こども園の園舎規模は、本町内で再編対象となる既存の幼児教育保育施設の合計面積である約3,200㎡と同程度として設定しました。

また、新こども園の諸室においては、法令で定められている諸室に加え、「保護者の視点」、「保育者の視点」、「地域の利用者の視点」に対応することとし、新たな諸室の設置も検討します。

■園舎の配置イメージ■

